

「百段階段」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備(青葉区)

「カラーリングを通して、そこに住む人がまちを育てていく。まちの新スポットは地元愛の象徴」

1960年代に田園都市として開発された「美しが丘」。遊歩道という概念が珍しかった頃から、歩車分

離のまちづくりがなされてきました。春夏秋冬、まちはいろいろな表情を見せ、今も魅力的な住宅地であ

り続けています。日本で初めて住民発意の建築協定※1をつくり、地区計画※2への移行に当たって遊歩道を歩行者専用道路に位置付けるなど、「まちは、そこに住んでいる人がつくりあげていくもの」という住民の想いと努力により、素敵なまち並みは開発後50年以上経った今も健在です。



カラーリングは2日間のワークショップとして企画され、合わせて約70名が参加した。



少し離れた場所からでも、カラフルな色彩で目を引く百段階段(左)
地域に点在する案内プレートには、百段階段の何段目の高さに当たるかが記載されている(右上)
情報看板前にはベンチを設置し、夜間はライトアップされる(右下)

2000年頃からは、遊歩道をカラーリングしたり、住宅地にアート作品を展示したりするアートのイベントを行ってきました。その時から関わっていた代表の藤井さんは、子どもたちが地域の階段を「百段階段」と呼んでいることを知ります。単に名前がつけられているだけでなく、そのネーミングのセンス、そして、子どもたちが地域に愛着を持っていることに改めて気づき、感動したとおっしゃいます。

その百段階段を地域の中心としてまちのランドマークを増やしていけば、もっとまちに愛着を感じても

らえると思った藤井さんは、デザイン性に富んだサインを街中に設置できないか、区役所に働きかけましたが、その反応は「趣旨は理解できるが、安心安全を保障する行政として、サイン整備はなかなか難しい」というものでした。しかし、そこでヨコハマ市民まち普請事業を教えてもらい、「まちは住民がつくるもの」というモットーから応募を決めます。

応募にあたって、地域でアンケート調査を行ったところ、様々な意見

が寄せられました。また、地域の人たちとまち歩きツアーを開催したところ、まちに暗くて歩きたくないような場所や、傷んでいる遊歩道があることなど、多くの発見がありました。提案をまとめる際には、地域の人たちがだけでなく、青葉区で活動する建築やデザインの専門家も巻き込み、みんなで知恵を出し合いました。その熱意が実を結び、見事コンテストを通過することができました。

「自分たちが作り上げた」と思っているそうです。

小学校の卒業式に階段を花で飾る「花の百段階段」も大好評で「毎年やってほしい」という要望があり、百段階段の新しいイベントが生まれました。最近では、百段階段が子どもたちやママたちの待ち合わせ場所にもなりつつあるそうです。

草も生えっぱなしで薄暗かったバス停には、周辺のマップをわかりやすく掲示板にして整備し、ライトもつけました。そこにベンチを置いたところ、子どもが集まって宿題をしたり、夜にはワインを飲む人も現れ、まちの新たな人気スポットになっていきます。

ヨコハマ市民まち普請事業に応募し、まちのことを改めて先輩から

レクチャーしてもらって、若い人たちが感動したり、若者のデザインセンスに年配の人が驚いたりしながら、ゆるくつながってお手伝いし合う、という関係が生まれました。自治会のアセス委員会に若い人が入ってきたり、子どもつながりで親たちが参加するようになったり、世代間の交流は着実に進んでいます。

ヨコハマ市民まち普請事業で整備した後も美しが丘をさらに魅力的なまちにしようとの機運が高まり、他の助成金を得て、百段階段へつながる歩道橋をカラーリングすることにになりました。「まちに、名前の付く場所が増えてほしい。そうすると、もっと地域を身近に感じる人が増えると思う」と藤井さんは言います。最近では美しが丘で生まれ育つ

た人たちが、「ここで子育てをした」と戻ってくる人も出てきているそうです。

住んでいる人がまちをつくる、という先輩たちの思いは着実に受け継がれ、美しが丘はさらに魅力的なまちに進化中です。

※1:土地の所有者等の全員の合意によって建築基準法等の「最低の基準」にさらに一定の制限を加え、互いに守りあっていることを「約束し、その「約束」を市長が認可する制度。

※2:都市計画法に基づいて定める特定の地区・街区レベルの都市計画のことで、まちづくりの方針や目標、道路・広場などの公共施設(地区施設)、建築物等の用途・規模・形態などの制限をきめ細かく定めるもの。

1960年代に田園都市として開発された「美しが丘」。遊歩道という概念が珍しかった頃から、歩車分



小学校の卒業式に合わせた「花の百段階段」。花のポットには「卒業おめでとう!」の旗がさされている。

「百段階段」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備(青葉区)

整備主体…美しが丘アセス委員会遊歩道ワーキンググループ

整備場所…青葉区美しが丘二丁目

整備内容…階段のカラーリング、案内プレート設置、情報看板設置

竣工時期…平成31年2月